

アナログアキュライザーの導入(1) ー仕様と評価計画ー

1. 始めに

インフラノイズ社から、アナログ信号整合器アナログアキュライザーAACU-1000が発売されたとの情報を入手し、すでに、デジタルアキュライザーDACU-500 と USB アキュライザーUACU-700 を使用していますので、今回の新製品に期待して早速導入することにしました。

2. アナログアキュライザーの情報収集

ネット上に得られた仕様などの情報は下記サイトのとおりです。

<https://www.infranoise.net/blog/>

<http://art.pepper.jp/archives/003451.html>

これらについて、すでに [Web 情報紹介【2019No.26】](#) でも紹介しています。



なお、試作品の段階でテストする機会に恵まれ、[LINN LP-12 の再構成\(10\)](#)で報告しています。

3. アナログアキュライザーの評価計画

アナログアキュライザーの評価は、つまるところ、使用箇所の選択の問題であり、アナログ再生とデジタル再生における使用箇所の選定候補については、インフラノイズのサイトの製品紹介記事に示されています。

それ故、デジタル再生経路とアナログ再生経路について、それぞれ適用可能な場所を選定し、アナログアキュライザー使用の効果を確認します。

音源については、使用箇所に応じて次のようなものを適宜選択していきます。

CD SACD アナログ盤 BS 放送録画 ファイル音源

BPODCH Spotify TIDAL OTTAVA TV YouTube

また、USB アキュライザーやデジタルアキュライザーとの併用も検討します。
アナログアキュライザーの適用の方向性等については、インフラノイズのサイトの
製品紹介に示されていますので、原則それに従いますが、必要に応じて変更するこ
ともあります。

なお、試聴だけでなく、活用方法として、アナログアキュライザーを適用した場合
の DA-3000 による DSD 録音も実施します。

以上